

ゼネラルパッカー通信

平成27年7月期(第54期)中間
2014年8月1日▶2015年1月31日

証券コード:6267

世界の品質を
“包装”で守る



包装システムのトータルプランナー

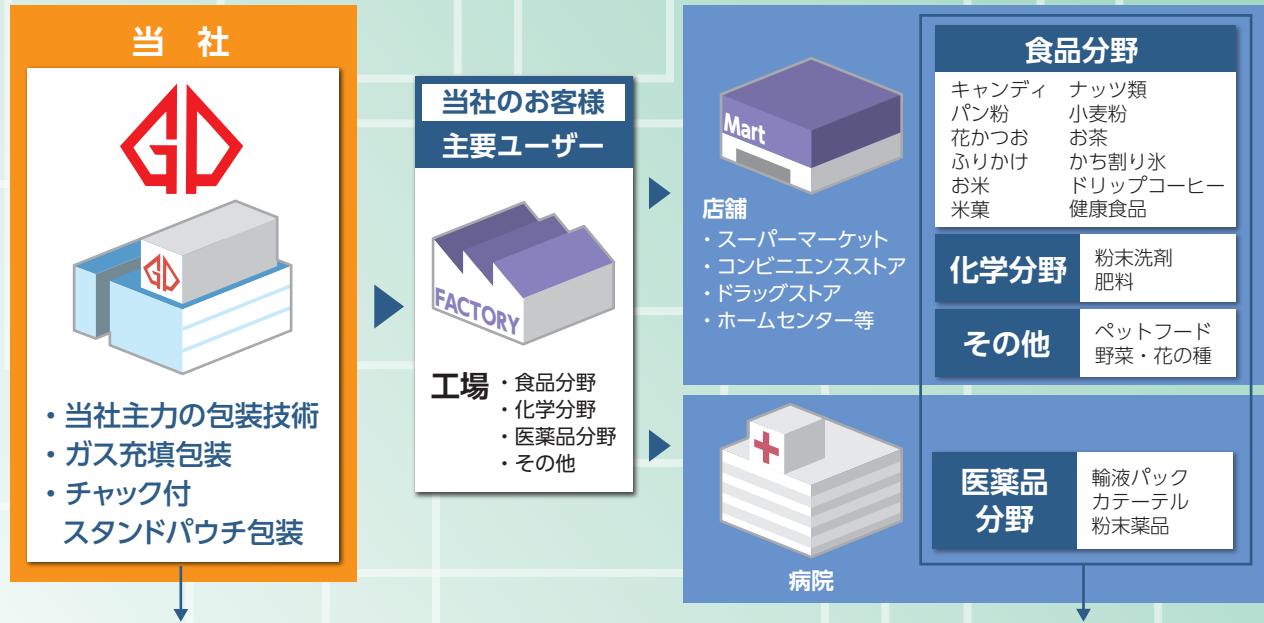


ゼネラルパッカー株式会社

■ 社 是 **創造と挑戦** — 感ずる、信ずる、行動する —

■ 経営理念 わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

「ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。」



魅力1 卓越した技術力

魅力2 優れた人材

新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち 1/3 が開発部および技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での高いシェア

小麦粉、かつおパック、かち割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。

▶ P9へ

魅力5 安定した株主還元

DOE 2%以上の安定配当を続けています。

▶ P5へ

「第4次中期経営計画」

■ 経営ビジョン

世界に飛躍する GP ブランド
One stop で応えるソリューションカンパニー
挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

海外市場での成長基盤構築へ

持続的成長に向けてグローバル企業を目指す

国内 安定的な売上高の確保

- 顧客関係の深化、新機種の投入
- ソリューションビジネスの拡大

海外 海外事業の強化

- 中国・東南アジア 市場の販売基盤の確立
- 海外市場向けの商品拡大

海外市場 世界20カ国

- 中国
- タイ
- 台湾
- カナダ
- フランス など

魅力4 新規分野・海外分野への成長

これから伸びが期待される医薬品・介護分野、また海外マーケットでの成長を続けています。

▶ P6へ

経営目標	第4次中計
	H29.7期目標
売上高経常利益率	5.5%以上
ROA (総資産経常利益率)	5.5%以上
ROE (自己資本当期純利益率)	6.0%以上

業績目標	H29.7期目標
売上高	5,500百万円
営業利益	295百万円
経常利益	300百万円
当期純利益	200百万円

基本戦略

- 顧客関係の深化と新機種投入により、国内市場で安定的な売上高を維持する
- 海外事業を強化し、海外市場向けの売上高の大幅な伸長を目指す
- 顧客の期待にワンストップで応え、ソリューションビジネスの拡大を図る
- 競争力強化と海外市場開拓のための商品開発を推進する
- 顧客が安心して生産活動できる包装システムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
- 事業領域拡大のための M&A・アライアンスを推進する

海外市場での成長基盤構築に向けて 取り組みを加速してまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ここに当社第54期第2四半期累計期間（平成26年8月1日から平成27年1月31日まで）の営業状況と通期の見通しをご報告させていただきます。ご一読の上、当社事業へのご理解とともに、今後の成長に一層ご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **梅森 輝信**

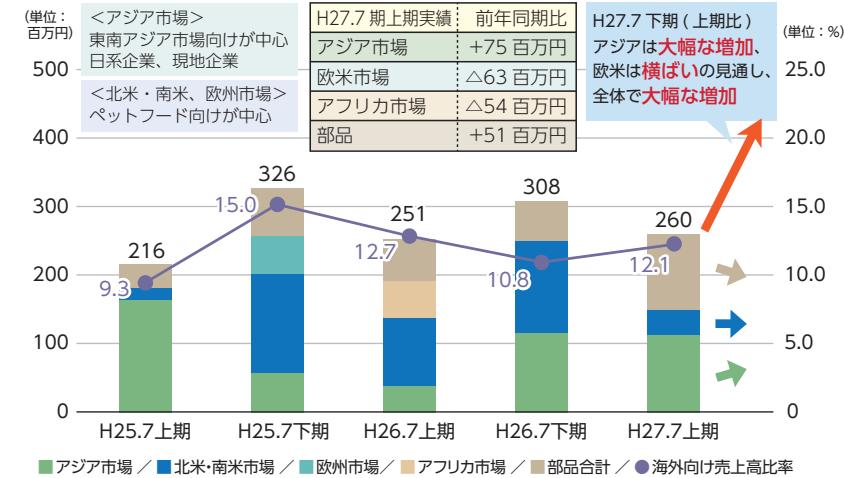
当期前半の事業環境と営業活動の成果

包装機械業界の事業環境は、全般的に好調に推移しており、平成26年度の生産高は、業界全体で4,000億円を超える見通しです。また、1月から12月までの包装機械および荷造機械の生産金額は、前年同期比5.5%増となりました（経済産業省 生産動態統計確報より）。

当社の営業活動においては、自社機品目の受注高が前年同期比で約3割増となり、過去最高水準の機械受注残高を確保するなど、順調な成果を上げました。売上高は、販売台数の拡大により増収となり、利益面についても大幅な改善を果たしました。

増収要因を品目別に見ると、給袋自動包装機の大幅な販売増が牽引し、製袋自動包装機と包装関連機器等の減少をカバーするとともに、保守消耗部品の伸びも寄与しました。エンドユーザーの業界別に見ると、食品業界向けの売上高が前年同期並みを維持し、化学関連業

海外市場向けの売上高



業績見通し

	H26 7月期	H27 7月期	前期比	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	金額 (百万円)	率 (%)
売上高	4,850	5,100	+249	+5.1
売上総利益	1,204	1,393	+188	+15.6
営業利益	229	295	+65	+28.6
経常利益	234	300	+65	+27.8
当期純利益	160	200	+39	+24.8

※2015年3月3日 業績予想を修正

界向けの売上高は、医療分野での販売が増加したことにより、前年の減収から回復を遂げました。

中期経営計画に掲げる海外事業の拡大

当期からスタートした第4次中期経営計画（平成27年7月期～平成29年7月期）は、「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」をテーマに掲げ、3年間の計画期間を「海外市場での成長基盤構築の時期」と位置付けた取り組みを進めています。その一環として、平成27年1月に中国・上海に駐在員事務所を開所するなど、海外販売体制の強化に着手しました。

当期前半の海外市場向け売上高は260百万円（前年同期比3.6%増）、売上高全体に占める割合は12.1%となりました。地域別に見ると、アジア市場における日系および現地企業への販売が増加したものの、欧米市場での

ペットフード向け販売が減少しました。

なお、現在アジア市場向けの受注が好調に推移しており、期末にかけて売上計上を予定していることから、通期の海外実績は大幅に増加する見通しです。

当社は今後、海外事業の成長を加速するために、海外市場向けの新機種を開発するとともに、グローバル企業および日系企業の海外拠点に対する企画提案営業を積極的に展開していく考えです。また、中国・東南アジア市場における販売基盤を確立すべく、中国拠点での販売拡大や、タイやインドネシアの現地企業向けアプローチを進めていきます。

当期後半の見通しと通期業績予想

前述の通り、当期前半の業績は増収・増益を果たしま

中国

CHINA

販売台数

H26.6期 売上	1台
H27.7期 上期 売上	1台
下期 予定	12台

「第4次中期経営計画」では、海外事業の強化を基本戦略の一つに掲げ、海外市場売上高比率 20%の達成を目指しています。その実現に向けて中国・東南アジア市場に

おける販売基盤の確立を進めており、このたび中国・上海に半年前から準備していた営業拠点を設置。現地市場開拓へのアクセルを踏み込みました。

中国展開のポイント

- ① 品質が認められ、ブランド力を発揮
- ② 現地代理店と提携し、販路を拡大

中国は世界最大の消費地であり、引き続き中長期にわたる市場拡大が期待できます。当社製品の販売においては、価格競争に巻き込まれる懸念がありましたが、大手メーカーの「高価でも信頼性の高い設備を導入したい」というニーズに品質で応え、ゼネラルパッカーのブランド力が認められてきました。また今回、上海の販売代理店との業務提携を締結したことにより販路が拡大し、営業展開が極めて有利となりました。すでに現地の食品メーカーやペットフードメーカーから受注が確定しています。



1 上海の駐在員事務所が始動

2014年5月に業務提携を結んだ上海市の販売代理店の本格稼働に伴い、当社初の中国拠点として駐在員事務所を同提携代理店と併設し、本年1月より営業をスタートしました。営業活動の強化のみならず、メンテナンスや消耗品供給などのアフターサービスも拡充し、現地のお客様に安心していただける体制を確立します。



▲上海事務所がある遠東国際広場

2 代理店 青島ショールーム新設

食品メーカーが集積し、日系企業の進出エリアでもある青島市に当社提携代理店が当社機械のショールームを本年3月に開設しました。デモンストレーション用に主力汎用機「GP-2000型」3台を設置し、新規開拓向けの営業拠点として積極活用していきます。



株主の皆様へのメッセージ

業績の好調を反映し、今回の第2四半期末配当につきましては、1株当たり4円（前年同期比50銭増配）とさせていただきます。期末配当につきましては、同5円（1円50銭増配）を予定しており、合わせて年間配当額は、同9円（前期比2円増配）となる見込みです。

当社は、食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会的貢献を果たせるよう、引き続き一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

したが、一部の高額案件において売上計上の遅延が発生したことから、売上高および営業利益・経常利益は計画を下回りました。当期後半の業績は、この遅延分が売上計上されるとともに、包装機械の受注が好調に推移し、大型包装システムの納入も予定していることから、当初の計画を大幅に上回る見通しです。

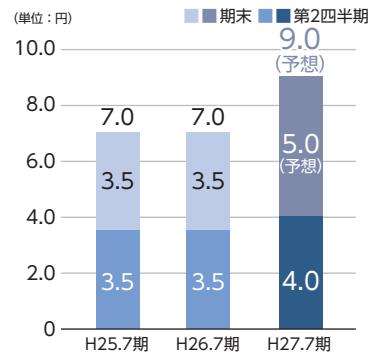
そのため通期業績については、計画を上方修正し、売上高51億円(前期比5.1%増)、営業利益2億95百万円(同28.6%増)、経常利益3億円(同27.8%増)、当期純利益2億円(同24.8%増)を予想しています。

第4次中期経営計画の初年度として、販売戦略および開発・技術戦略を着実に遂行し、計画達成のための足場を固めてまいります。

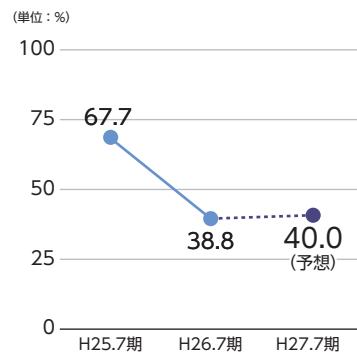
株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向 50%または純資産配当率 (DOE) 2% を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

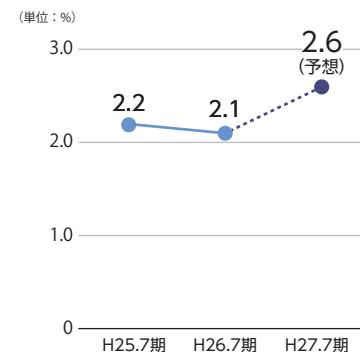
1株当たり配当金

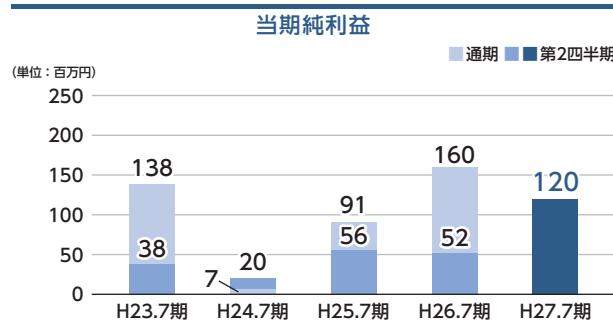
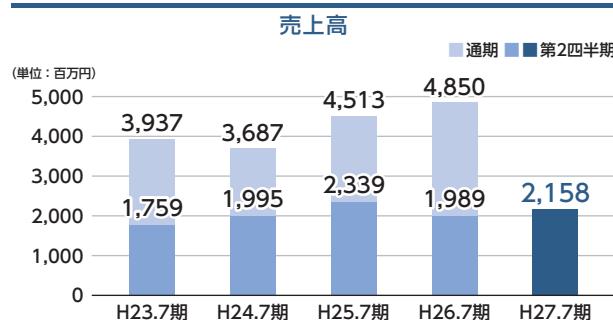


配当性向



純資産配当率 (DOE)



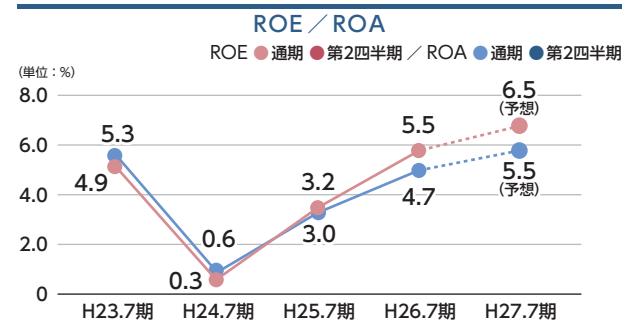
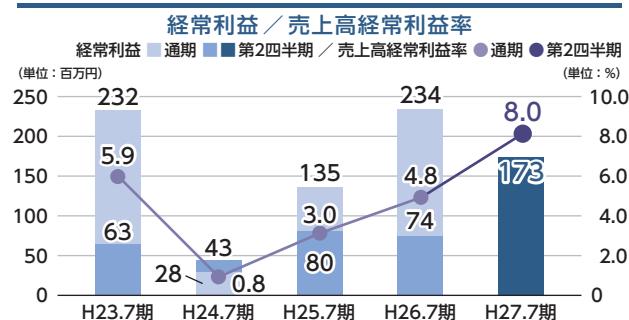


経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費に一部弱さが見られたものの底堅い動きとなり、雇用・所得環境においては改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のなか、当社は海外事業の強化、ソリューションビジネスの拡大に取り組んでまいりました。

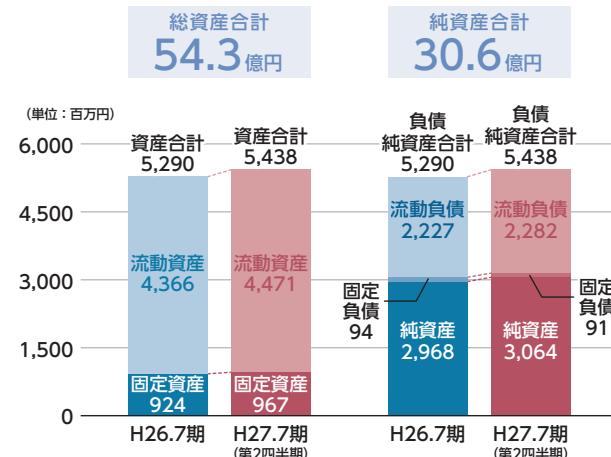
当第2四半期累計期間における売上高につきましては、顧客企業の設備投資需要の増加に伴い、汎用タイプの給袋自動包装機の販売台数が大幅に増加した



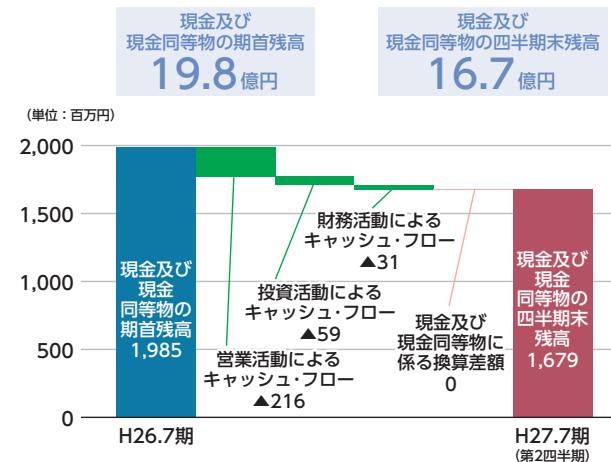
ことから、前年同期に対し169百万円増収の2,158百万円(前年同期比8.5%増)となりました。

利益面につきましては、増収に伴う売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費が前年同期から抑制されたことから、営業利益168百万円(前年同期比133.3%増)、経常利益173百万円(前年同期比132.5%増)、四半期純利益120百万円(前年同期比128.7%増)と前年同期に対し増益となりました。

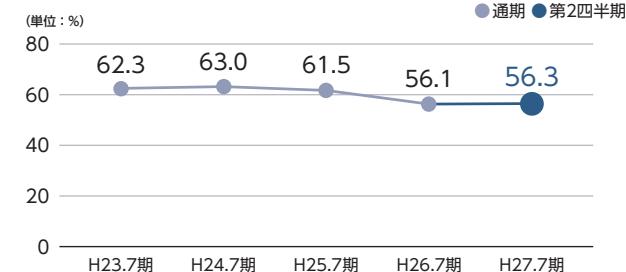
財務状況



キャッシュ・フローの推移



自己資本比率



財務分析

当第2四半期会計期間末における流動資産は、棚卸資産が593百万円増加したこと等により前事業年度末に比べて105百万円増加いたしました。流動負債は、前受金が256百万円増加したこと等により前事業年度末に比べて55百万円増加いたしました。純資産は、利益剰余金の増加等により、前事業年度末に比べて95百万円増加いたしました。

キャッシュ・フロー分析

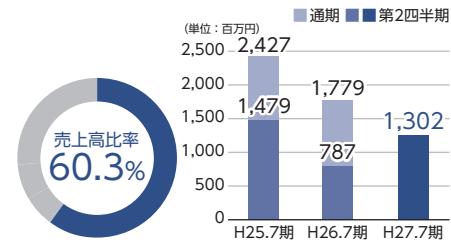
営業活動の結果使用した資金は、216百万円(前年同期は2百万円の獲得)となりました。収入の主な内訳は、売上債権の減少額538百万円、前受金の増加額256百万円等であり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額593百万円、未収入金の増加額309百万円、仕入債務の減少額172百万円等であります。

品目区分別の状況

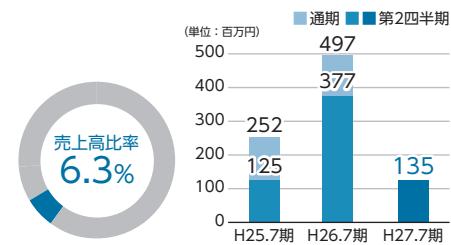
給袋自動包装機（ガス充填自動包装機含む）



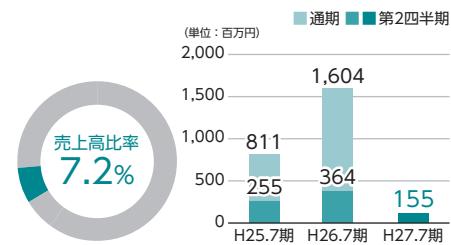
給袋自動包装機は、販売台数が増加したことから、売上高は1,302百万円（前年同期比65.4%増）となりました。



売上高 **1,302** 百万円 前年同期比65.4%増

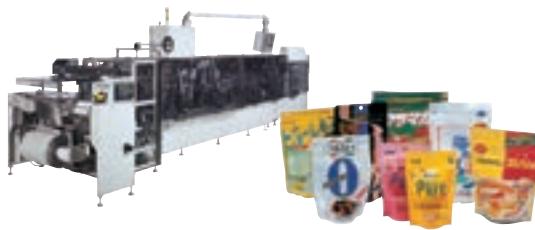


売上高 **135** 百万円 前年同期比64.1%減



売上高 **155** 百万円 前年同期比57.3%減

製袋自動包装機

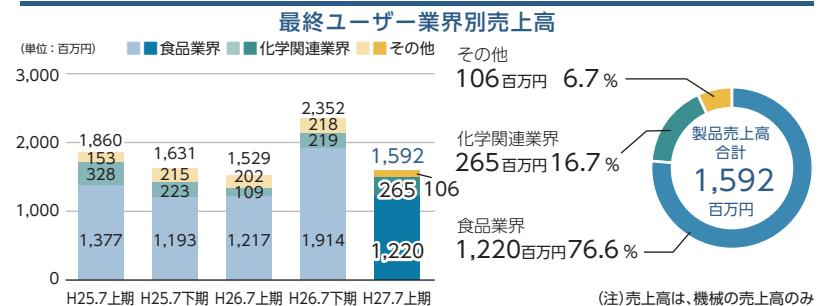
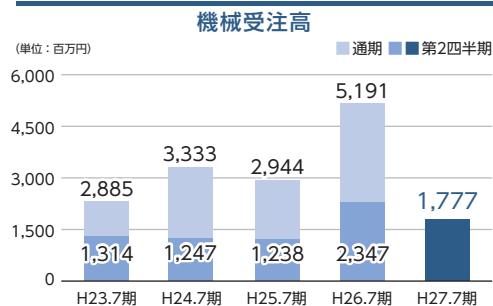


製袋自動包装機は、販売台数が減少したことから、売上高は135百万円（前年同期比64.1%減）となりました。

包装関連機器等



包装関連機器等は、包装システムの販売実績が減少したことから、売上高は155百万円（前年同期比57.3%減）となりました。



会社・株式情報

■ 会社概要（平成27年1月31日現在）

商号	ゼネラルパッカー株式会社	
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.	
設立	昭和41年2月（創業 昭和36年12月）	
資本金	2億5,157万7千円	
事業内容	各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附随する一切の業務	
従業員数	126名	
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺 神明65番地 Tel.(0568) 23-3111 (代) Fax.(0568) 22-3222	
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03) 3256-3891 (代) Fax.(03) 3256-3893	

■ 取締役及び監査役（平成27年1月31日現在）

代表取締役社長	梅森輝信	
常務取締役	小関幸太郎	管理部 兼 資材部担当
取締役	鈴木完繁	営業本部長
取締役	池田勇次	生産部担当
取締役	牧野研二	開発部長 兼 技術部担当
取締役	尾関津義	営業副本部長 兼 システムソリューション部長
取締役	濱田兼幸	
常勤監査役	福井義雄	
監査役	村橋泰志	
監査役	浅井一郎	

■ 株式の状況（平成27年1月31日現在）

発行可能株式総数	28,000,000株
発行済株式総数	8,994,000株
株主数	856名

■ 大株主（平成27年1月31日現在）

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社ワイ・イー・データ	1,350,000	15.20
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,304,000	14.68
原 利子	399,625	4.49
株式会社りそな銀行	392,000	4.41
ゼネラルパッカー取引先持株会	370,000	4.16
高野 季久美	364,000	4.09
田中 かな	364,000	4.09
梅森 輝信	241,000	2.71
島末 孝法	196,000	2.20
SHINJIRO HARA	150,250	1.68

株主数構成比



個人・その他	813名	94.97%
その他法人	23名	2.69%
証券会社	13名	1.52%
金融機関	4名	0.47%
外国人	2名	0.23%
自己名義	1名	0.12%

株式数構成比



個人・その他	6,552,286株	72.85%
その他法人	1,619,400株	18.00%
金融機関	472,000株	5.25%
外国人	154,250株	1.72%
自己名義	107,018株	1.19%
証券会社	89,046株	0.99%

IR サイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

http://www.general-packer.co.jp/ir_index.html

企業ホームページ
最優秀サイト

日興アイ・アール
新興市場ランキング

4年連続受賞

主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR 情報などをご覧ください。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。



ニュースメールに ご登録ください

最新のニュースリリース、ホームページの更新情報、IR 関連のメールマガジンなどをメール配信するサービスです。(不定期配信)



個人投資家の皆様へ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。



▲トップページ

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp/>

各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

包装システムのトータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

●本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222

●東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

